

岡山の人物・自然・文化・風土の原風景

2010年度内田百閒文学賞応募作品(抜粋)

不動産鑑定士 馬場 勉さん

岡山市は、遠い所にある田舎都市か？

過日、会合のため東京の上野公園に赴いた。皆さんから、遠路おいでいただきありがとうございますと労いの言葉をいただいた。新幹線で3時間余りで東京へゆけるし、いまや東京と岡山間はビジネスの世界では日帰り圏だ。だから、岡山から支店あるいは出張所など出先機関を引き揚げてしまう傾向が顕著になっている。けだし、携帯電話、ファクス、メール等々で仕事はできるためだ。

大阪と広島のちょうど中間地点にあるため、どちらかの支店の支配下に配属して事業遂行すれば仕事はできるので、中継する事務所はいらないということです。瀬戸大橋が開通したときは、岡山が中国地区の拠点になるのではないかと淡い期待をしていた。然るに、いかんせん、夢に終わったようだ。また、岡山市が政令指定都市になったまではよかったが、それでどう変わったかとなれば、変わり映えがしないというのが現実。岡山市役所の事務量が増加したということは、確かだろうけど、知名度が飛躍的に高まったわけではない。市民は冷めているし経済効果に恩恵があったということはないに等しい。土地価格が上昇したわけでもなく下落しているのが現実だ。

東京の人は、岡山市より倉敷市の方をよく知っている。その倉敷市が、チボリ公園が跡形も無くなって更地になったため、人の往来が激減したのが原因となって、倉敷駅上のホテルは廃業して取り壊すそうであるから、チボリ公園廃業の及ぼした影響力は大きく、全てが水の泡となってしまった。“まち”は生きものであることを証明したようなものだ。

やはり、岡山市は日本全体の人口が減少する中であっても、人口倍増させるぞという意気込みを以って、なにはどうあれ、政令指定都市になった以上は、経済力をつけることが緊急の課題であろう。

ところで、会合が上野公園の精養軒で行われたので上野界隈の散策をした。ちょうど、花見の時期で夜桜を楽しむ人たちがびっしり。場所取りも苦勞するだろうなあ〜と暢気なことを考えていた。

国立西洋美術館を覗いてみた。もともと旧・川崎造船所の社長、(故)松方幸次郎氏の松方コレクション(370点の作品からなる)を基礎に、彼

の寄贈品等を国民に観てもらうために、国が建設した唯一の国立美術館だそうだ。ロダンの彫刻が非常に多いのにびっくりした。フランス美術コレクションを中心に、超一級品がずらりとあって、観て周るのに疲れるぐらい名品が多くある。それにしても、自分の収集した美術品等を国へ寄贈する太っ腹には関心する。と、ともに収集のために投入した私財の軍資金だって、稼いで儲けたものだ。それゆえ、国へ形をかえて国民のもとに、国民の共通の財産として返還する、という考えも奇特な人の思い入れと納得できる。所詮、そういう行動は、普通人には、なかなかできるものではないが、気骨ある勇氣に、あっぱれと拍手を送りたい。上野公園界隈は、多くの美術関係等の大学や施設があるから、下町情緒を楽しむだけでなく、文化や学術等を楽しむところでもある。

私は、東京出張などで行ったときには、時間の余裕をみて文化や学際的な香りのするところ、特に上野公園界隈、また、新しくできた新規参入の街(東京駅周辺)などに、物見遊山を兼ねて足を運ぶようにしている。が、何分にも東京は広すぎるので、ほちほちというところ。

それにしても、地下鉄の乗り換えは、駅構内だけでも結構距離がある。たっぷり歩くことになる。足腰は、都会の方が地方都市の人より強いと思う。長く歩いても距離を感じさせないのは何故か。街全体が歩いて楽しいエンターテイメント性があるからだ。刺激がある。都会は、街の楽しみと未知の世界への発見があるから、最大の刺激を受けることになる。地方都市が寂れるのは、街に活気がなく楽しみも少ないから歩くのが億劫になり長く感じられるため。すぐに乗り物を利用するようになる。それゆえ、田舎や地方都市のまちには面白さがないため人が集まらないことが要因と考えられる。それゆえ地方における地方分権は掛け声だけで実現性が乏しい。

時々、東京・大阪・京都等へ行って刺激を受けてみましょう。ただ、私の主観的かつ素直な気持ちでは、生活の本拠はあくまで岡山が理想とします。

天下の秀才も“志”が重要

津山市の「津山洋学資料館」に行った。かつて

は、レンガ造りの銀行の建物を跡利用していたのだが、今年3月に新築した建物に移転した。岡山が医学に対して、先駆的な役割を果たしたことを、立証し確認するための岡山経済同友会の視察である。

津山市の「城東町並保存地区（じょうとうまちなみほぞんちく）」として整備が進んでいる、旧出雲街道沿いの津山市西新町に位置している。

日本史の教科書に出てくる有名な人、あるいは出なくても、貢献した人などが津山洋学資料館の構成の対象になっている。津山が将軍家とつながりのある藩であったことも津山医学の発展には幸いしたようである。館内には、医学系の書物を中心にオランダ（和蘭）を主流とする洋学の書籍や立体模型などにより説明・解説されている。

歴史的に見れば、江戸詰の津山藩医宇田川玄随（うだがわけんずい）が津山の地に洋学を紹介したのが始まりといえる。宇田川玄真（げんしん）、榕菴（ようあん）の宇田川三代によって日本に近代科学が紹介され、かつ、もたらされたといっても過言ではなからう。この三代の系譜から、緒方洪庵（おがたこうあん）や箕作阮甫（みつくりげんぽ）など多くの学者が輩出された。

日本史に出てくる解体新書（ターヘル・アナトミア）の杉田玄白、前野良沢、大槻玄沢の流れとも深く結びついて連携がある。このように江戸の末頃にオランダ語を翻訳し、現在使われている専門用語や一般に使用されている日本語の一部が編み出された。日本語に翻訳された医学用語は、そんなに昔のことではなく、200年程以前のことである。緒方洪庵の「適塾」は津山洋学の流れとつながっていて、洪庵の門弟に福沢諭吉などが輩出されているのであるから、いってみれば、長い糸で繋がっているといえる。

ちょうど、幕末から明治維新に至る混乱の時期であったが、当時の先駆者は日夜勉学に励み“志”

を高くもって常に“志”を貫く強い精神力で前進したのである。天下の秀才といえども“志”があつてこそ達成できたのである。

今の日本で欠けているチャレンジ精神が、当時の“志”の高い先駆者には有り余るほどあったのである。日本の文明開化には欠かせないものだった。必死に取り入れようとしたのだろう。今とは、世の中の政治・経済の環境が違うといえればそれまでだが、時代は変わっても、今でも当時の先駆者と同じように“志”を持って真摯に努力すればひとかどの人物になれるはずである。封建時代の昔以上に、門戸は広く開かれている。不変の大志を常に持っていることが、大切であることがわかる。

新館には、地元の学生のみならず医学系の関係者などが、視察に訪れているとのことだ。興味のある人は、是非、津山へ足を運んで下さい。きっと、何かを感じる場所があるでしょう。幕末から明治へかけての世の中の動乱期が、生み出した人間模様には興味をそそるものがある。例えば、三菱財閥の創始者岩崎弥太郎や適塾を開いた緒方洪庵など“志”を貫くことに全力をあげた人達である。時代の後押しもあったが、後世に末永く名を残し業績が高く評価されている。時代環境は変わっても、基本的姿勢は同じであろうから若い人は希望を持って進んで欲しい。

なお、宇田川氏、箕作氏の4代目あたりの子孫の人は津山にはいない。江戸詰め先祖だったため、地元岡山には縁が無いらしい。残念ですが…

先駆者「緒方洪庵先生」と「適塾」

私が、はじめて緒方洪庵のことを知ったのは、すでに10年以上前に遡る。仕事（不動産鑑定士として）で岡山市北区足守にゆき、その際、洪庵先生の生誕地に石碑や古井戸及び銅像などがあって、私の心に何か触れるものが残った。近くの古ぼけた民家で、天然痘の種痘を行ったと伝わって

あらゆる職種、多彩なニーズに—

効きます。 オリコミ!

広告処方せん

オリコミ初心者の方へ
手軽、身近、安価な広告です。
まずは、お試しください。

長らくオリコミをお休みの方へ

正確な情報収集・分析により
**専門スタッフが高效率で
元気のでる提案を!**

やっぱりオリコミ! (全国・全新聞取扱)

オリコミ、新聞、電波、求人誌、あらゆる広告のお問い合わせは—
あったかコミュニケーション
山陽折込広告センター

〒700-0986 岡山市北区新屋敷町2丁目1-1
TEL(086)241-5252 FAX(086)241-8833
URL <http://www.soac.co.jp/>
営業所/倉敷・津山・真庭・備前・笠岡・井原・福山・香川・東京

いる。すなわち嘉永3(1850)年に足守除痘館を開いている。その後、生誕地は公園として整備され道路の改修などが行われたため、一般人が訪れ易くなった。

とにかく、岡山が生んだ医学界の先駆者であり、大阪大学医学部の生みの親である。門弟の福沢諭吉の慶応義塾大学の創立の精神や実践にも深く受け継がれているのだから、大袈裟に言えば、江戸末期から明治維新における開国日本の立役者の一人であるから、忘れてはならない人物その人が、緒方洪庵である。

緒方洪庵は、文化7(1810)年に備中国足守藩の下級藩士の子として足守に生まれ、文久3(1863)年に江戸で亡くなった。岡山の足守藩士から身を起し医師(蘭学者)であった。特に大阪で天保9(1838)年に、私塾の適々斎塾(適塾)を開き、多くの人材を育てた教育者でもある。津山洋学の流れを汲むもので、文明開化の黎明期に、“志”を高くもって活躍された第一人者である。特に、嘉永2(1849)年に大阪の古手町に除痘館を開き天然痘の予防にあたったことは有名である。

文久2(1862)年に幕府の要請により奥医師兼西洋医学所頭取として江戸に出したが、文久3(1863)年に54歳(数え年)で死亡し、波乱な人生を締めくくった。が、その業績は顕著なものがある。現在でも学問的系譜は続いているのである。

適塾は、天保9(1838)年、大阪の瓦町に、私塾の蘭学塾として開かれ、明治元(1868)年に閉鎖された。これにより、30年間の歴史を閉じた。現在、大阪大学が建物や資料を管理している。大阪の北浜3丁目(地下鉄、淀屋橋の東方)に町屋の佇まいで残っているのが、国の重要文化財の指定を受けている適塾の当時のままの建物が現在の有姿である。

適塾については、大阪の人は皆さん知っている

が、岡山の人は、ほとんどの人が適塾そのものについて知らない。このことは、岡山の人が郷土の先輩達に対して、ほとんど興味を持たないことを、如実に証明しているようなものである。私は、先輩の業績を評価し、後世の人が誇らしく大切に尊敬の念を持つべきだと、考えるのだが…。

過日、鹿児島に行ったときに、定期観光バスのバスガイドの若い女性が、西郷隆盛先生とか、大久保利通先生とか、滔々としやべり紹介しながら、自分たちの先輩に対して、非常な尊敬と敬意を持って誇りにしていることに感銘を受けたことがあった。

岡山のバスガイドさんが、どのように紹介しているのか詳しくは知らないが、例えば、犬養毅総理大臣というような表現はするだろうが、岡山の生んだ偉大な政治家、犬養毅先生というような表現はしていないのではないかと思う。こういう対応の差に、教育県を自負してきた岡山県人気質の皮肉な一面をみることができる。温故知新の気持ちに欠けるように思われて残念である。

私には、鹿児島県の民性の方が立派で優れていると映るのですがいかがでしょうか…。古いヤツだと思いでしょ、古い者ほど新しいものを欲しがりますよ。一千年の都が置かれていた京都を見れば、新しいものを取り入れ常に時代の先端が芽生えているではありませんか。

「津山洋学資料館」を訪れた際、津山洋学の流れを緒方洪庵が継承し、さらに、門弟の福沢諭吉が受け継ぐという一条の長い系譜を見たとき、緒方洪庵という大人物かつ大先輩を大切にすべきと思った。再評価の必要が大いにあり。なお、私は「おかやま適塾」を開催していたが(現在、休講中)適塾の名前にこだわり大阪大学に名称使用の承諾をもらったうえで郷土の先輩の適塾を名前の冠に使用させてもらった経緯があります。参考までに。

自分史・自費出版物

OnlyOneの素晴らしい一冊が出来上がります。

お気軽に
ご相談
下さい!!

出版物を発行するとなると非常にお金がかかると思われがちですが、想像よりも安い価格で作成できます。個人で発行されている物には「自叙伝」や「趣味の本」、ご家族との「写真集」などがあり、思いつくまま気軽にご相談下さい。

基本価格
一例

四六判(188×127ミリ) ×80頁×100冊で、約**34万円**税込



山陽新聞グループ
山陽印刷株式会社

本社/〒701-1133 岡山市北区富吉3098-1
☎(086) 294-9811(代) ☎(086) 294-1934
E-mail/info@sanyo-pc.com

ホームページアドレス <http://www.sanyo-pc.com/>